

# 栗原の稲作通信

令和2年第1号 令和2年6月3日発行

宮城県栗原農業改良普及センター

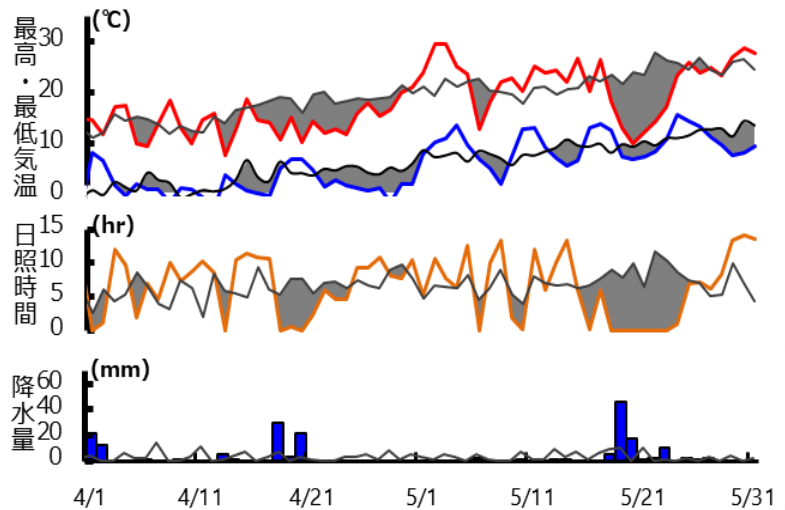
宮城県米づくり推進栗原地方本部

電話番号 0228-22-9404

分げつ促進のため浅水管理を基本としましょう / いもち病の要因となる残苗を処分しましょう

## 気象経過

- 4月は低温傾向で、特に中下旬の気温がかなり低くなりました。  
日照時間は、おおむね平年並となりました。
- 5月は、前半は高温・多照傾向でしたが、後半は低温寡照傾向となり、特に19~23日の気温はかなり低くなりました。



気象経過 (アメダス築館) \* 黒線は平年(過去5年平均)

東北地方1か月予報 期間：5/30~6/29  
仙台管区气象台5月28日発表より要約

### 特に注意を要する事項

期間のはじめは気温がかなり高くなる見込み

### 予想される向こう1か月の天候

平均気温：平年より高い確率60%

日照時間：平年並の確率40%

降水量：平年並の確率40%

## 播種・田植え状況

- 播種盛期(50%終了)は、平年より5日遅い4月17日、  
播種終期(95%終了)は、平年より6日遅い4月27日となりました。
- 田植盛期(50%終了)は、平年より4日遅い5月17日、  
田植終期(95%終了)は、平年より5日遅い5月27日となりました。

## 生育経過

- 葉数が平年を下回る調査ほが多いですが、生育はいずれも順調です。
- 田植日が平年並~早いほ場では、草丈・茎数が平年並~上回り、  
田植日が平年より遅いほ場では、草丈・茎数が平年並~下回っています。

表1 生育調査ほ調査結果(6月1日調査)

品 種	地 区	田植日			草丈(cm)			茎数(本/m <sup>2</sup> )			葉数(枚)		
		本年	前年差	平年差	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年差 (枚)	平年差 (枚)
ひとめぼれ	築館 太田	5/6	2日遅	1日遅	29	92	99	84	40	48	5.5	-1.3	-1.2
ひとめぼれ	若柳 大林	5/20	2日早	1日遅	17	79	75	115	115	96	4.1	-0.7	-1.3
ひとめぼれ	一迫 中屋敷	5/13	6日遅	4日遅	21	81	82	66	54	63	4.8	-0.7	-1.2
ひとめぼれ	平均	5/13	2日遅	2日遅	22	85	86	88	61	66	4.8	-0.9	-1.2
つや姫	築館 留場	5/23	同日	4日遅	17	92	73	61	82	79	4.1	-0.3	-1.0
だて正夢	築館 留場	5/21	10日遅	-	20	73	-	76	64	-	3.8	-2.0	-
萌えみのり	金成 新桜町	5/9	1日早	4日早	25	84	96	78	122	118	5.8	0.8	0.4

注) 平年値は過去5年平均値とする

## 今後の管理

### ■水管理

- ・活着後は3cm程度の浅水で管理し、水温・地温を高めて分けつの発生を促しましょう。  
極端な低温が続くと予想される場合には、水深を5～6cmの深めにしてイネを低温から守りましょう。
- ・生わらや牛ふん堆肥などの有機物を多用している水田では、気温の上昇とともに有機物の分解が盛んになり、イネに有害な硫化水素などのガスが発生しやすくなります。  
このような場合は、溝切りや落水管理を行い、根の活力低下を防ぎましょう。
- ・除草剤を使用する場合は、使用上の注意事項をよく読み、適切な水管理に努めましょう。

### ★★★だて正夢栽培のツボ★★★

だて正夢は分けつしにくいので、目標穂数を確保するためには、初期生育の確保が大変重要です。  
活着後は水深2～3cmの浅水を基本として、分けつの発生を促しましょう。

### ■雑草対策

- ・表層剥離が多発すると、フロアブルやジャンボ剤では拡散が妨げられ濃度のムラが生じ、局所的に薬害や残草が生じます。藻類や表層剥離の発生が懸念される場合には、徐々に落水して浅水管理を行い、降雨時には落水して田面に雨が当たるように管理しましょう。除草剤散布前に藻類や表層剥離が目立つ場合は、田面水を交換してから除草剤を散布するようにしましょう。ただし、除草剤散布後7日間は必ず止め水してください。
  - ・ほ場の残草状況を確認し、草種と葉齢に応じて、中期剤の使用を検討しましょう。
  - ・ノビエ、イヌホタルイ、シズイなどの雑草により、斑点米の原因となるアカスジカスミカメが水田内で増殖して被害が助長されます。
- \* JA新みやぎ栗っこ環境保全米では指定の初中期一発剤のみ使用可能です。  
\* JA新みやぎ栗っこぽっちゃん米(マニュアル米)では中・後期剤は使用できますが、剤の指定がありますので、JAに御確認願います。

### ■病害虫防除

#### ▷いもち病

- ・補植用残苗はいもち病の発生源となりますので、補植が終了したら直ちに処分しましょう
- ・飼料用米や直播栽培など、箱施用剤による予防防除を行っていない場合は、各種水面施用剤を散布しましょう。

#### ▷イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ

- ・箱施用剤を使用した場合 …… 本田での防除は必要ありません。  
箱施用剤を使用しなかった場合 …… 要防除密度(下記参照)により防除の実施を判断しましょう。
- \* JA栗っこ環境保全米等では、使用できる農薬に制限がありますので、対応はJAに御相談願います。

#### 要防除密度

イネミズゾウムシ	畦畔際2m程度の成虫密度 140頭/100株(晩期栽培は70頭/100株)
イネドロオイムシ	成虫密度 25頭/100株 または 産卵最盛期の卵塊密度 80個/100株

### ■春の農作業安全確認運動実施中 実施期間 4月1日～6月30日

「見直そう! 農業機械作業の安全対策」

トラクター等の整備不足や操作ミスが転落・横転・追突の事故を引き起こします。農機事故を未然に防ぐために備えるべき機器(ランプ等)や操作時の安全確認と予防対策をもう一度考えてみましょう。

### ■農薬危害防止運動実施中 実施期間 6月1日～8月31日

農薬の使用に当たっては、必ずラベルに記載された適用病害虫、使用方法、最終有効年限などを確認して、定められた方法を厳守しましょう。

最新の農薬登録情報は、農林水産消費安全技術センターのホームページで確認することができます。

<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtllm000.html>